

再 評 価 項 目 調 書

再評価実施要件		○ 事業採択後 (年) ● 再評価後 (5 年) ○ その他 ()				
1 事 業 概 要	事業名	江崎漁港海岸 漁港海岸保全施設整備事業 (高潮対策)				
	事業場所	萩市大字江崎 地先				
	事業主体	山口県				
	事業期間	《 前回評価 平成 28 年 時 》 平成 22 年度 ~ 令和 8 年度 《 令和 8 年度 》 (西暦 2010 年度 ~ 西暦 2026 年度 《 西暦 2026 年度 》)				
	総事業費 (内用地補償費)	《 1,740 百万円 》 2,289 百万円 (43 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	971 百万円 (42 百万円)	進捗率 (用地補償費)	42 % (98 %)
	事業目的	<p>江崎漁港は山口県と島根県との県境に位置する第4種漁港である。当海岸の海岸保全施設は天端高などの防災機能が不足しており、幾度となく浸水被害を受けている。</p> <p>平成21年の副振動※1による異常潮位により多くの民家で床上、床下浸水被害が発生した。近年では令和2年台風9号の高潮により、床下浸水が発生しており、近年激甚化する高潮被害への対策が急務である。</p> <p>このことから、海岸保全施設の整備による一連の防護ラインの構築により、高潮による浸水被害を軽減し、背後地の生命、財産を防護する。</p>				
	事業内容	<p><継続></p> <p>○護岸工L=305m、胸壁工L=225m、水門 1門</p> <p>設計高潮位：C.D.L +1.75m (T.P +1.55m)</p>				
事業効果	<p>高潮対策における浸水被害防止効果</p> <p>浸水戸数 86戸→0戸 浸水面積 2.38ha→0ha 被害額 (家屋等) 4,020百万円→0円</p> <p>平成21年7月 副振動における浸水被害防止効果 浸水戸数 50戸→0戸</p> <p>令和2年9月 台風9号における浸水被害防止効果 浸水戸数 11戸→0戸</p>					
2 再 評 価 の 視 点	(1) 社会経済情勢の変化	<p>浸水区域内の人口は、前回評価時から減少傾向であるものの、世帯数に変化はなく、背後地には住居施設が密集していることから、高潮対策の必要性は依然として高い。</p> <p>【浸水区域内の状況変化 (国勢調査)】</p> <p><萩市大字江崎></p> <p>○人口：0.94倍 (91/97人) <H27/H22></p> <p>○世帯数：1.00倍 (40/40世帯) <H27/H22></p> <p><参考：県全体></p> <p>○人口：0.97倍 (1,405/1,451千人) <H27/H22></p> <p>○世帯数：1.00倍 (599/597千世帯) <H27/H22></p>			中項目 評 価	大項目 評 価
	関係市町及び地元の意向	<p>過去に高潮などによる浸水被害を受けており、高潮に対する防災意識・関心は高い。地元住民は事業に協力的であり、事業推進にあたって、協力体制が整っており、地元要望は非常に高い。</p>			中項目 評 価	A ・ B ・ C

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	<p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前回 (基準年： H28)</th> <th colspan="2">今回(再評価) (基準年：R3)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">便益 (B)</td> <td>①一般資産被害軽減額</td> <td>756</td> <td>1,421</td> <td>1,421</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②公共土木施設被害軽減額</td> <td>1,362</td> <td>2,557</td> <td>2,557</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③公益事業等被害軽減額</td> <td>23</td> <td>43</td> <td>43</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>2,141</td> <td>4,020</td> <td>4,020</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>1,456</td> <td>2,380</td> <td>1,048</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>116</td> <td>382</td> <td>382</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>1,572</td> <td>2,762</td> <td>1,430</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比(B/C)</td> <td>1.36</td> <td>1.46</td> <td>2.81</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】 ○根拠マニュアル 海岸事業の費用便益分析指針(平成16年6月 令和2年4月一部更新)農林水産省農村振興局、農林水産省水産庁、国土交通省河川局、国土交通省港湾局とする。基準年は令和3年とする。 ①一般資産被害軽減便益：防護地域内に存在する一般資産(家屋、家財、事業所、農作物、農漁家)に対する被害軽減額 ②公共土木施設被害軽減便益：防護地域内に存在する公共土木施設(橋、道路、公園、等)に対する被害軽減額 ③公益事業等被害軽減便益：防護地域内に存在する公益事業等(電気、ガス、水道、等)に対する被害軽減額</p>	区分	主な項目	前回 (基準年： H28)	今回(再評価) (基準年：R3)		備考	全体事業	全体事業	残事業	便益 (B)	①一般資産被害軽減額	756	1,421	1,421		②公共土木施設被害軽減額	1,362	2,557	2,557		③公益事業等被害軽減額	23	43	43		総便益	2,141	4,020	4,020		費用 (C)	①事業費	1,456	2,380	1,048		②維持管理費	116	382	382		総費用	1,572	2,762	1,430		費用便益比(B/C)		1.36	1.46	2.81		大項目 評 価 ○A ・ B ・ C
	区分	主な項目	前回 (基準年： H28)			今回(再評価) (基準年：R3)		備考																																																
			全体事業	全体事業	残事業																																																			
	便益 (B)	①一般資産被害軽減額	756	1,421	1,421																																																			
②公共土木施設被害軽減額		1,362	2,557	2,557																																																				
③公益事業等被害軽減額		23	43	43																																																				
総便益		2,141	4,020	4,020																																																				
費用 (C)	①事業費	1,456	2,380	1,048																																																				
	②維持管理費	116	382	382																																																				
	総費用	1,572	2,762	1,430																																																				
費用便益比(B/C)		1.36	1.46	2.81																																																				
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・護岸工305mのうち245m、胸壁工225mのうち175mが完成し、水門工事基礎工に着手したところである。 ・今後は、水門の本体工や機械・電気設備工事を行い、水門周辺護岸と残りの胸壁の施工を行う。 	大項目 評 価 ○A ・ B ・ C																																																					
		【事業費の変化】 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 主要因は、地元漁業者と調整の結果、施工方法が海上施工から陸上施工に変更となり、仮棧橋を追加したこと等による。 【事業期間の変化】 <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無																																																						
(4) 代替案等のコスト削減の可能性	コスト削減	既設護岸を有効活用することでコスト削減を図る。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>中項目 評 価</th> <th>大項目 評 価</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○a・b</td> <td style="text-align: center;">○A ・ B ・ C</td> </tr> </table>	中項目 評 価	大項目 評 価	○a・b	○A ・ B ・ C																																																	
	中項目 評 価	大項目 評 価																																																						
○a・b	○A ・ B ・ C																																																							
代替案	湾奥部に家屋等が密集した地域となっていることから、環境への影響が少なく、既設護岸を土留めとして有効活用する当計画が最も経済性に優れ、計画通り進めることが妥当である。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>中項目 評 価</th> <th>大項目 評 価</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○a・b</td> <td style="text-align: center;">○A ・ B ・ C</td> </tr> </table>	中項目 評 価	大項目 評 価	○a・b	○A ・ B ・ C																																																		
中項目 評 価	大項目 評 価																																																							
○a・b	○A ・ B ・ C																																																							
3 環境	配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・汚染防止対策として、海上工事に際しては、汚濁防止膜を設置する。 ・振動防止対策として、基礎工事に際しては、低振動の工法で施工する。 ・景観の保全として、萩市景観条例に準じ、護岸、建物等に漁村景観に配慮した色彩を計画 																																																						
4 対応方針 (事業実施主体案)	総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 見直し継続 <input type="radio"/> 中止																																																						
	評価理由	事業の必要性、費用対効果を勘案し、事業を継続する必要がある。																																																						
	備考																																																							

【用語説明】

※1 副振動：陸や堤防に囲まれた海域などで観測される、数分から数10分程度の周期が短い海面の昇降現象。低気圧などの影響によって発生した波が湾内に入ることによって引き起こされる強制振動。



江崎漁港海岸 漁港海岸保全施設整備事業(高潮対策)
【平面図】

凡例	
	海岸保全区域
	漁港区域
	令和4年度以降残事業
	令和3年度まで施工済



完成写真(護岸)



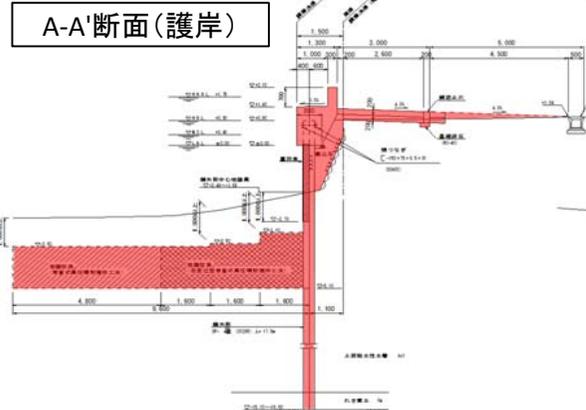
完成写真(胸壁)



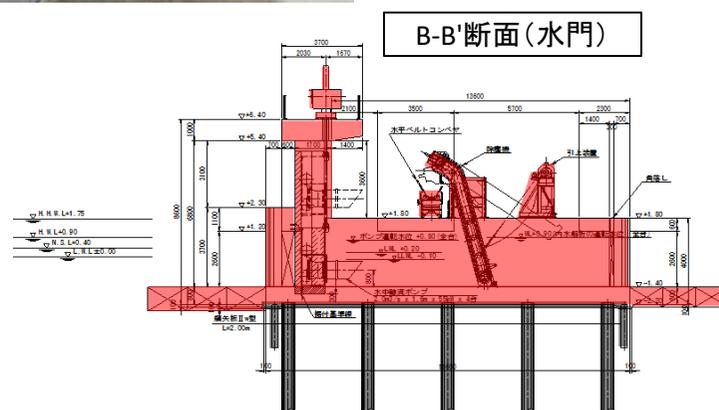
平成21年7月副振動による浸水



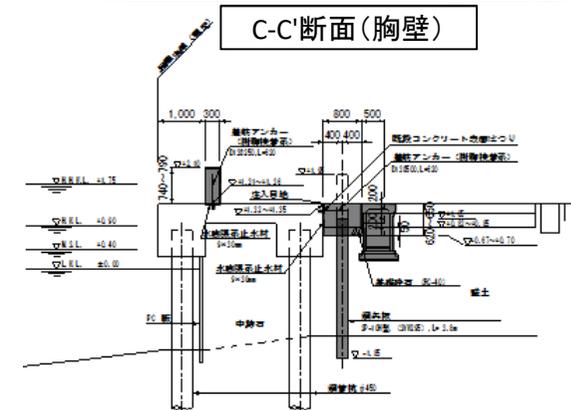
令和2年台風9号による浸水



A-A'断面(護岸)



B-B'断面(水門)



C-C'断面(胸壁)